

2021

コースガイド

陶芸コース



学校法人 瓜生山学園

京都芸術大学 通信教育課程

日本では、陶芸の素材である土自体の持ち味を尊重し、昔からそれぞれの土地の自然風土に根ざした作陶が行われ、産地特有の陶芸作品が生まれてきました。また、陶芸には生活—生きる—ということがベースにあります。時間と素材との関係に陶芸ならではの成り立ちがあり、現在まで営々と続けられています。

当コースではこのように陶芸が風土に育まれた文化である点に目を向けながら、新しい現代感覚あふれる器やインテリアの提案、造形表現としての陶芸など土という素材を通し、各自の感性を重視した表現を追求します。また、さまざまな世代、職業の人々が集まる通信教育の特性を活かし、異文化、異世代の交流を通じて、表現へのエネルギーを高める場、そして、その結果として人間的な絆を深める場でありたいと考えています。

1、2年次には土による生活陶芸（器、インテリア等）制作の基礎を学びます。陶芸の技術の修得と学生一人ひとりがそれぞれの表現志向を立脚点とし、土という素材に触れながら自分にとってどのような技法、形態がふさわしいかを探ります。3年次では、1、2年次で習得した技法を展開し、器だけでなくクレイワークと呼ばれる陶による造形表現の可能性を探ります。そして、4年次ではそれまでの集大成として卒業制作展に向けての制作に取り組みます。

スクーリングでは、作品制作だけでなく、地域、年齢、職業を超えた情報交流を積極的に推進します。歴史と伝統を誇る京都という土地の利点を活かしながら、通信教育を通じて土と人との出会いを大切にした陶芸教育を展開します。

目次

1. [新入生のみなさんへ] 学習をはじめるにあたって……………	2
2. [在学生のみなさんへ] 2021年度からの変更事項と注意事項……………	3
3. 学習を進めるにあたって……………	4
4. 専門教育科目一覧……………	5
5. 卒業制作着手要件・卒業要件……………	6
6. カリキュラムマップ……………	8
7. 履修条件図……………	10
8. スクーリング日程・スクーリングコード一覧……………	12
9. 履修モデル……………	16
10. 専門演習テキスト科目 (TW・TX) ……………	19
11. 専門演習スクーリング科目 (S) ……………	20
12. 課題作品の制作について……………	21
13. 2021年度テキスト作品課題提出用紙……………	25

コースガイドを使って履修計画をたてましょう

通信教育では通学制と異なり自分で履修プランをたて学習をすすめることが重要です。

入学許可後は、『学習ガイド』やシラバスを確認して履修計画をたてましょう。airUマイページでは履修プランを作成することができます。



本学通信教育課程では「履修登録」がありません。年度途中に新規科目に取り組むことも可能です。また、履修状況や学習環境の変化によって履修プランをたてなおし、学習をすすめていくことができます。

1. [新入生のみなさんへ] 学習をはじめるにあたって

1. まずは「airUマイページ」にアクセスしよう

陶芸コースでは、テキスト科目、スクーリング科目ともに学習用webサイト「airUマイページ」を利用して学習に取り組みます。課題の提出やシラバス、教材等の閲覧はもちろん、通信教育課程で学修を進めるにあたっての各種手続き（スクーリングの申し込みや各種証明書の申し込み、学籍更新手続き）もairUマイページから行うことができます。

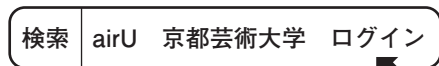
ログインアカウントとパスワードが届いたら、まずはアクセスしてみましょう。

airUマイページ <https://air-u.kyoto-art.ac.jp/>

airUキャンパス <https://air-u.campus.kyoto-art.ac.jp/>

▶詳細は『学習ガイド2021』pp.14～16を参照。

QRコード：airUマイページ



学籍情報や成績など

- ・学籍情報
 - ・成績
 - ・藝術学会受講履歴
 - ・学費
- 上記項目が確認できます

教材BOX

陶芸コースでの各科目共通の資料や入学ガイダンス資料を確認できます。

カリキュラム一覧（シラバス）

各科目の『シラバス』（科目概要や評価基準、課題の内容など）を確認することができます。

お知らせ

事務局や研究室からのお知らせが確認できます（こまめに確認が必要です）

履修プラン

履修プランを立てる事が出来ます

スクーリング申込

スクーリングを申込や申込状況が確認できます

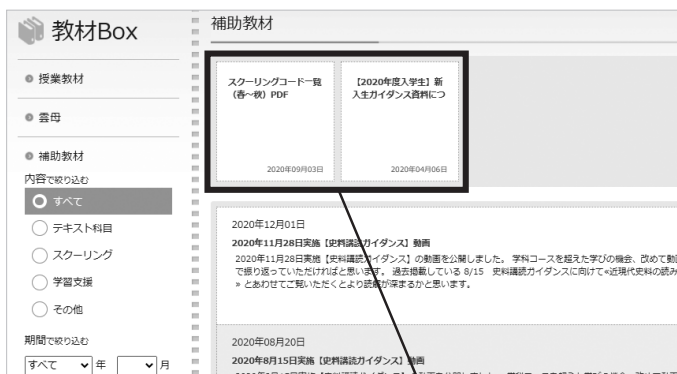
教材BOXを活用しよう

airUマイページにログインしたら、まずは教材BOX>補助教材を確認しましょう。

ガイダンス画面をこちらからチェックし、入学から学習までの流れや、授業を受けるのに必要な資料を確認しましょう。



補助教材
まずは教材ボックスを開いて、補助教材を選択！



新入生ガイダンス動画や、授業を受けるのに必要な資料が確認できます

2. 「新入生ガイダンス」に出席しよう

「新入生ガイダンス」(4月は京都・東京で開催、5月はオンライン開催)に参加し、履修計画の立て方や履修方法などについて理解を進めましょう。

3. 履修計画を立てよう

はじめに「入学許可証・卒業要件通知」で卒業要件を確認します。次に何年かけて卒業するのかを仮定し、卒業までの履修計画を立てましょう。本誌pp.16～18「履修モデル」を参考にしてください。

4. スクーリングを申し込もう

スクーリングは申し込みが必要です。入学年度は4月から申し込みがはじまり5月以降に開講されるスクーリングから受講可能です。『学習ガイド2021』pp.50～60を確認のうえ、airUマイページまたは郵送にて申込手続きを行いましょう。

※所定の申込期間内に申し込みを行わないとスクーリングを受講することができませんので注意してください。

5. コース専門演習テキスト科目「陶芸演習Ⅰ-1」第1課題を提出しよう

入学したらまずはairUマイページの『専門教育科目シラバス陶芸コース』に基づき、「陶芸演習Ⅰ-1」の課題制作に取り組みます。初回の提出日を目指して課題に取り組み、提出してください。

※陶土等については最寄の材料店で各自購入してください。最寄に材料店がなく陶土の入手が困難な方は、通信販売で購入できます。本誌p.21をご参照ください。

6. 入学区分別について

●1年次入学

入学1年目は、1年次配当のテキスト科目、スクーリング科目を履修してください。入学2年目には、1年目に履修し終えていない科目に加え2年次配当科目を、3年目にはそれまでに履修し終えていない科目と3年次配当科目を履修できます。

●3年次編入学【異分野】(卒業要件62単位以上・専門52単位以上)

1年次配当科目から履修を始めますが、入学初年度から、3年次配当科目までの履修が可能です。ただし科目によっては履修の前提条件がありますので、綿密に計画を立ててください。2年ですべてのカリキュラムを履修するには相当な学習時間と努力が必要です。また、2年目で卒業制作に着手できても、3年次配当科目までの知識と技術を習得していなければ思うような結果を残すことができません。事情が許すなら2年間という期間にとらわれずできるだけ時間をかけて、知識と技術を習得していただくのが理想的です。

7. 研究室からのお知らせについて

●『雲母』(きらら)

年8回発行・送付する通信教育部の補助教材です。学習を進めるうえで重要な連絡事項や日常の学習活動を支援する情報も掲載しています。

●airUキャンパス・陶芸ブログ

学習に役立つ展覧会情報や陶芸研究室のスタッフで運営しているブログを公開していますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。(陶芸ブログ:<http://tsuushintougei.blogspot.jp>)

2. [在学生のみなさんへ] 2021年度からの変更事項と注意事項

1. 3年次スクーリング科目7単位以上の履修について

本制度は2021年度より廃止になりました。専門教育科目の3年次スクーリング科目は6単位上限となります。

2. スクーリング科目の遠隔化について

以下のスクーリング科目は、複数日程開講のうち1日程が遠隔授業になります。

「陶芸Ⅱ-1(机上のオブジェ/石膏型)」2日程のうち1日程

3. スクーリング科目名の表記について

これまで、日程順で「科目名」+a、b、cで表記していましたが、2021年度より、京都開講はK・東京開講はTとし、「科目名」+KまたはTで表記します。また遠隔スクーリング科目は「科目名」+Eで表記します。(例)

「陶芸Ⅰ-1(日常の器/ロクロ技法)」K 京都開講

「陶芸Ⅱ-1(机上のオブジェ/石膏型)」E 遠隔(Zoomオンライン)開講

4. 遠隔化にかかわるサポートについて

airUマイページやZoom等の基本的な利用方法については、ガイダンスや資料等を準備しています。随時airUマイページ「お知らせ」で周知していきますのでご確認ください。

なお総合教育科目に「オンライン授業入門」を開講していますが、これまでにパソコンやインターネットを利用したことがない方に向けた内容になっています。ガイダンス資料等と重複する内容も多いことをあらかじめご了承ください。

3. 学習を進めるにあたって

学習を進めるにあたっては、『学習ガイド』もあわせて参照してください。

1. 履修形態 ▶『学習ガイド』pp.11～13参照

通信教育課程における開講科目は、「テキスト科目」と「スクーリング科目」に大きく分けられます。
本学通信教育課程では、自宅学習や対面授業、レポートや作品など課題によって科目の形態が6種類あります。

テキスト科目	TR	テキストレポート科目	レポート課題と単位修得試験のある科目	自宅学習
	TW	テキスト作品科目	作品課題の科目	
	TX	テキスト特別科目	卒業関連科目、論文研究など特別な科目	
スクーリング科目	WS	ウェブスクーリング科目	Web上での動画学習とレポート試験／作品課題がある科目	対面／遠隔授業
	S	スクーリング科目	対面／遠隔授業のある科目	
	GS	芸術学舎科目	本学が開講する公開講座芸術学舎を受講する科目	

2. 履修期間・課題提出期間 ▶『学習ガイド』p.11、pp.32～64参照

それぞれ3ヶ月タームで履修の区切りがあります。課題提出期間は科目区分によって決まっています。

課題提出・単位修得試験スケジュール		春期			夏期			秋期			冬期		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
TR	テキストレポート科目	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～31		試験 1～8
TW	テキスト作品科目	作品 11～20	作品 11～20		作品 11～20	作品 11～20		作品 11～20	作品 11～20		作品 11～20	作品 11～21	
TX	テキスト特別科目	課題の提出期間は科目により設定されます。											
WS	Webスクーリング科目		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20
S	スクーリング科目		夏期先行募集 17～25			秋期先行募集 17～25			冬期先行募集 17～25				2022年度 春期先行募集 3月下旬
		春期追加募集 12～(開講30～5 日前)		夏期追加募集 10～(開講30～5 日前)		秋期追加募集 10～(開講30～5 日前)			冬期追加募集 10～(開講30～5 日前)				
GS	芸術学舎科目		夏季申込 5月初旬～			秋季申込 8月初旬～			冬季申込 11月初旬～			2022年度 春季申込 2月中旬～	

・対面の単位修得試験の今年度の試験実施日と受験申込期間は『学習ガイド』pp.41～42を参照してください。

卒業判定にかかる方は卒業関連科目以外の科目を冬期（1月～3月）に履修することはできません。

※ただし、卒業要件の必修TR・TW科目において、秋期（10月～12月）のレポート・作品課題もしくは単位修得試験が不合格かつ当該科目以外の卒業要件を満たす見込みの方に限り、冬期の履修を認めることがあります。
詳細は『学習ガイド』p.68を確認してください。

※東京オリンピック・パラリンピック開催期間中は、一部地域において郵便・配達等の遅れが生じる場合があります。

3. 課題提出方法 ▶『学習ガイド』pp.33～36参照

課題提出形態は「airU」「郵送」「窓口」の3種類です。科目により「airU」のみで受け付けるもの、「郵送」または「窓口」のみで受け付けるものもあります。それぞれの締切日の到着は、「airU」は13時までに大学のサーバーに着信済、「郵送」は本学に必着、「窓口」は京都・瓜生山キャンパス通信教育課程事務局窓口にて17時までに受付済、と定められています。

4. 単位修得試験 ▶『学習ガイド』pp.40～45参照

テキストレポート科目（TR）では、レポート合格後に単位修得試験が受験可能です。単位修得試験はWeb（airUマイページ）と対面（京都・東京）で受験できます。なお、レポート課題提出形態によって、受験方法が異なり、airUマイページでレポートを提出した場合はWeb受験、郵送・窓口でレポートを提出した場合はWebまたは対面どちらかで受験します。

5. スクーリングの申し込み方法・キャンセル ▶『学習ガイド』pp.49～56参照

スクーリング科目（S）の申し込みは3ヶ月ごとに募集を行います。申込スケジュールを確認し、期日内にairUマイページまたは郵送・窓口より手続きしてください。また、受講許可後はキャンセル時期により10～100%のキャンセル料が発生します。

6. 芸術学舎科目 ▶『学習ガイド』p.65参照

年4回3ヶ月ごとの季に分けて開講している一般公開講座です。講座を受講することで通信教育部で有効な単位の修得が可能です。詳細は、芸術学舎Webサイト、パンフレットを参照してください。芸術学舎の単位認定に関しては『学習ガイド』pp.70～72を確認してください。

4. 専門教育科目一覧

科目一覧							卒業要件（注1）							配当年次 （注2）		
科目群	科目区分	科目コード	科目名	サブタイトル	単位数	S／T	新カリキュラム（2014年度以降入学）									
							2021年度以降入学		2020年度以降入学		2019年度以前入学					
							1年次入学	3年次編入学	1年次入学	3年次編入学	1年次入学	3年次編入学				
							124単位以上 （S科目30単位以上）	62単位以上 （専門52単位以上） 【異分野】	124単位以上 （S科目30単位以上）	62単位以上 （専門52単位以上） 【異分野】	124単位以上 （S科目30単位以上）	62単位以上 （専門52単位以上） 【異分野】	62単位以上 （専門32単位以上） 【同分野】（注4）			
門 教 育 科 目 （注3）	学 部 共 通 専 門 教 育 科 目	40501	造形基礎演習Ⅰ		2	TW	—	—	—	—	●	●	●	1年次～		
		40502	造形基礎演習Ⅱ		2	TW	—	—	—	—	●	●	●			
合 計							20単位以上	12単位以上	20単位以上	12単位以上	20単位以上	12単位以上	12単位以上			
専 門 教 育 科 目	コ ー ス 専 門 演 習 Ⅰ 科 目	64601	陶芸演習Ⅰ-1		2	TX	●	●	●	●	●	●	—	1年次～		
		64602	陶芸演習Ⅰ-2		2	TX	●	●	●	●	●	●	—			
		64603	陶芸演習Ⅱ-1		2	TX	●	●	●	●	●	●	—	2年次～		
		64604	陶芸演習Ⅱ-2		2	TX	●	●	●	●	●	●	—			
		64605	陶芸演習Ⅲ-1		2	TX	●	●	●	●	●	●	●	3年次～		
		64607	陶芸演習Ⅲ-2		2	TX	●	●	●	●	●	●	●			
		64609	陶芸演習Ⅳ		4	TX	●	●	●	●	●	●	●	4年次		
		合 計							16単位	16単位	16単位	16単位	16単位	16単位	8単位	
		専 門 教 育 科 目	コ ー ス 専 門 演 習 Ⅱ 科 目	64001	陶芸Ⅰ-1	日常の器／ロクロ技法	1	S	●	●	●	●	●	●	—	1年次～
64002	陶芸Ⅰ-2			白い器／ロクロ技法	2	S	●	●	●	●	●	●	—			
64003	陶芸Ⅱ-1			机上のオブジェ／石膏型	1	S	●	●	●	●	●	●	—			
64004	陶芸Ⅱ-2			食卓の風景／石膏型	2	S	●	●	●	●	●	●	—			
64005	陶芸Ⅲ-1			機能からの発想／手びねり技法	1	S	●	●	●	●	●	●	●	—	2年次～	
64006	陶芸Ⅲ-2			円柱からの展開／手びねり技法	2	S	●	●	●	●	●	●	●	—		
64007	陶芸Ⅳ-1			面による構成／タタラ技法	1	S	●	●	●	●	●	●	●	—		
64008	陶芸Ⅳ-2			空間の演出／タタラ技法	2	S	●	●	●	●	●	●	●	—		
64018	陶芸Ⅴ-1			発想の展開	2	S	●	●	●	●	●	●	●	●	3年次～ （注5）	
64019	陶芸Ⅴ-2			上絵の器	2	S	●	●	●	●	●	●	●	●		
	陶芸Ⅴ-3 （2018年度まで開講） （注7）			技法研究／鑄込の展開	1	S	—	—	—	—	—	—	—	—		
64021	陶芸Ⅴ-4			技法研究／大物ロクロ	1	S	●	●	陶芸Ⅴ-4～9から2科目選択必修（注6）							
64022	陶芸Ⅴ-5			釉薬研究	1	S	●	●								
	陶芸Ⅴ-6 （2020年度まで開講） （注8）			産地研究／信楽	1	S	—	—								
	陶芸Ⅴ-9 （2020年度まで開講） （注9）			焼成研究／黒陶・楽	1	S	—	—								
64091	卒業制作		6	S	●	●	●	●	●	●	●	●	4年次			
合 計							24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	12単位以上			
その他		総合教育科目、学部共通専門教育科目、資格関連科目などから自由に選択。														
総 合 計							124単位以上	62単位以上	124単位以上	62単位以上	124単位以上	62単位以上				

※TW：TW：テキスト科目（作品課題の科目）、TX：テキスト特別科目（卒業関連科目・論文研究など特別な科目）、S：スクーリング科目、●：必修科目

(注1) 2年次編入学の必修科目は、3年次編入学（専門52単位以上）と同じです。ただし、総単位数は84単位以上となります。

(注2) 配当年次：履修のための前提条件であり、その年次に到達しないと履修できません。さらに、科目に別途、履修の前提条件がある場合は、その条件を満たす必要があります。

(注3) 学部共通専門教育科目の科目は、『学習ガイド2021』等でご確認ください。

(注4) 3年次編入学同分野は2016年度入学生までが対象となる入学区分です。

(注5) 3年次配当スクーリング科目について、2014年度以降の入学生と2013年度以前の入学生でそれぞれ成績の認定科目名が異なります。

詳細は「11.専門演習スクーリング科目」のスクーリング科目3年次配当科目をご確認ください。

(注6) 2013年度以前の入学生は履修した順に「陶芸Ⅴ-4」「陶芸Ⅴ-5」として認定します。

(注7) 2018年度までに履修済の方は「陶芸Ⅴ-3（技法研究/鑄込の展開）」として卒業要件科目として認定されます。

(注8) 2020年度までに履修済の方は「陶芸Ⅴ-6（産地研究/信楽）」として卒業要件科目として認定されます。

(注9) 2020年度までに履修済の方は「陶芸Ⅴ-9（焼成研究/黒陶・楽）」として卒業要件科目として認定されます。

5. 卒業制作着手要件・卒業要件

1. 卒業制作着手要件について

卒業制作に取り組む前年度末までに「卒業制作着手要件」(下記【1】)を満たせば卒業年度前半のスクーリング「卒業制作 (1、2)」が受講でき、秋期スクーリング申込の所定の時期(次項【3】)までに「卒業制作 (3～6)」の履修の前提条件(下記【2】)を満たせば「卒業制作 (3～6)」が受講できます。受講申込時期は「卒業制作 (1、2)」が春期、「卒業制作 (3～6)」が秋期(次項【3】)です。

- ・「卒業制作 (3～6)」の履修の前提条件」を卒業制作に取り組む前年度末までに満たしておくと、着手年度は卒業制作に集中して取り組めるため、できるだけ早めに前提条件を満たすことをお勧めします。
- ・卒業制作着手判定や卒業判定、2021年度卒業予定者のスケジュール等は『学習ガイド2021』pp.68～69「卒業判定」を参照してください。

【1】卒業制作着手要件

入学区分 注1	科目群	修得すべき単位数	備考
1 年次入学 (124 単位以上)	学部共通専門教育科目	12 単位以上	
	コース専門演習 T 科目	8 単位以上	「陶芸演習Ⅰ・Ⅱ」必修
	コース専門演習 S 科目	12 単位以上	「陶芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」必修
	その他	(注1)	
	合計	90 単位以上	3 年以上在籍していること(休学期間を除く)
3 年次編入学 (62 単位以上・ 専門 52 単位以上) [異分野]	学部共通専門教育科目	8 単位以上	
	コース専門演習 T 科目	8 単位以上	「陶芸演習Ⅰ・Ⅱ」必修
	コース専門演習 S 科目	12 単位以上	「陶芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」必修
	その他	(注1)	
	合計	32 単位以上	1 年以上在籍していること(休学期間を除く)
3 年次編入学 (62 単位以上・ 専門 32 単位以上) [同分野]	学部共通専門教育科目	8 単位以上	
	コース専門演習 T 科目	—	
	コース専門演習 S 科目	—	
	その他	(注1)	
	合計	28 単位以上	1 年以上在籍していること(休学期間を除く)

(注1)「その他」については、総合教育科目、学部共通専門教育科目、コース専門演習S科目・T科目(編入学生で必修以外の科目がある場合)、資格関連科目などから自由に選択し合計単位数を満たすこと。

※編入学生の卒業要件については、お手元の「入学許可証・卒業要件通知」をご確認ください。

※2年次編入学生(卒業要件84単位以上)の卒業制作着手要件は、3年次編入学生と同じです。ただし合計が50単位以上あること、2年以上在学していること(休学期間を除く)が必要です。

【2】「卒業制作 (3～6)」の履修の前提条件

入学区分	科目群	科 目
全て	コース専門演習 T 科目	「陶芸演習Ⅲ-1」を合格済み 「陶芸演習Ⅲ-2」を合格済み
	コース専門演習 S 科目	「陶芸V-1」～「陶芸V-5」の中から4単位以上を合格済み(注2) 「卒業制作(前期)」を履修中のこと

(注2) 2020年度以前の入学生は、「陶芸V-1」～「陶芸V-9」の中から4単位以上を合格済み
詳細は本書p.5「4.専門教育科目一覧」をご確認ください。

【3】「卒業制作（3～6）」受講申込時期と履修の前提条件の合格時期

「卒業制作（1・2）」を受講し、【2】を下記「先行募集」「追加募集」いずれかの申込期間内に満していれば「卒業制作（3～6）」が申込できます。本科目の「追加募集」に定員はありません。

スクーリング 開催回	申込時期		テキスト課題の合格	スクーリングの合格	
			陶芸演習Ⅲ-1 陶芸演習Ⅲ-2	陶芸Ⅴ-1～5から 4単位以上（注1）	卒業制作 （1・2・3）
秋期 （10～12月開講）	先行	8/17～8/25【必着】	7月度（7/26【必着】）までに提出の課題 が合格済み	7月末までに 合格済み	履修中
	追加	9/10～10/18【必着】	7月度（7/26【必着】）までに提出の課題 が合格済み	8月末までに 合格済み	

（注1）2020年度以前の入学生は陶芸Ⅴ-1～9から4単位以上

※卒業制作スクーリングは年に2回の申し込みとなります。春期（4～6月開講）の申込時期に「卒業制作1,2」スクーリングを2つ、秋期（10月～12月開講）の申込時期に「卒業制作3～6」スクーリングを4つそれぞれセットで申し込んでください。卒業制作スクーリングでは、原則として定員を設けません。必ず追加募集を行います。

【4】卒業要件 について

2021年度卒業予定の方は卒業関連科目（「卒業制作」「陶芸演習Ⅳ」）以外の科目を冬期（1月～3月）に履修することはできません。秋期（10月～12月）までに卒業関連科目以外の科目の履修を完了してください。特にTR科目は12月の単位修得試験を受験するには10月度にレポート提出し合格する必要があります。また、卒業制作はTX科目「陶芸演習Ⅳ」（4単位）とスクーリング科目「卒業制作」（6単位）を一括認定します。課題の一つ、あるいはスクーリングの一つでも合格できなければどちらの科目も単位修得できません。

入学区分(卒業要件)(注2)	科目群	修得すべき単位数	備考
1年次入学 （124単位以上）	総合教育科目	指定なし	
	学部共通専門教育科目	20単位以上	2019年度以前入学の方は「造形基礎演習1・2」必修 2020年度以降入学の方は必修の指定なし
	コース専門演習T科目	16単位	すべての科目が必修
	コース専門演習S科目	24単位	「陶芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「卒業制作」が必修
	その他	（注1）	
	合計	124単位以上	S科目30単位以上
3年次編入学 （62単位以上・ 専門52単位以上） 〔異分野〕	総合教育科目	指定なし	
	学部共通専門教育科目	12単位以上	2019年度以前入学の方は「造形基礎演習1・2」必修 2020年度以降入学の方は必修の指定なし
	コース専門演習T科目	16単位	すべての科目が必修
	コース専門演習S科目	24単位	「陶芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「卒業制作」が必修
	その他	（注1）	
	合計	62単位以上	
3年次編入学 （62単位以上・ 専門32単位以上） 〔同分野〕	総合教育科目	指定なし	
	学部共通専門教育科目	12単位以上	2019年度以前入学の方は「造形基礎演習1・2」必修 2020年度以降入学の方は必修の指定なし
	コース専門演習T科目	8単位以上	「陶芸演習Ⅲ・Ⅳ」必修
	コース専門演習S科目	12単位以上	「陶芸Ⅴ」「卒業制作」必修
	その他	（注1）	
	合計	62単位以上	

（注1）「その他」については、総合教育科目、学部共通専門教育科目、コース専門演習S科目・T科目（編入学生で必修以外の科目がある場合）、資格関連科目などから自由に選択し合計単位数を満たすこと。

（注2）2年次編入学生（卒業要件84単位以上）の卒業要件は3年次編入学生（62単位以上・専門52単位以上）〔異分野〕と同じです。ただし、合計が84単位以上あること、3年以上在学していること（休学期間を除く）。

6. カリキュラムマップ

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための科目が、どのように配置されているのか、各科目の関係性や配当年次などを示した、カリキュラムの体系的な俯瞰できる図です。履修計画の参考にしてください。

カリキュラムの内容と関連性	1 年次 土に触れ、素材の特性を知る	2 年次 陶芸の技法から造形へ向かう
形態や特徴を自らの視点で捉える観察力、それを形にするための素材の扱い方や技法を身につける。	TX 必 陶芸演習Ⅰ－１ <第１課題> 土による立体デッサン(制作)	TX 必 陶芸演習Ⅱ－１ <第１課題> 花の器(制作)
発想を表現へと組み立てていく構想力を身につける。	TX 必 陶芸演習Ⅰ－２ <第１課題> 五客揃の碗(制作)	TX 必 陶芸演習Ⅱ－２ <第１課題> ハレの日の器(制作)
発想を形にするための技法を習得し表現力を身につける。	S 必 陶芸Ⅰ－１ 日常の器/ロクロ技法	S 必 陶芸Ⅲ－１ 機能からの発想/手びねり技法
	S 必 陶芸Ⅰ－２ 白い器/ロクロ技法	S 必 陶芸Ⅲ－２ 円柱からの展開/手びねり技法
	S 必 陶芸Ⅱ－１ 机上のオブジェ/石膏型	S 必 陶芸Ⅳ－１ 面による構成/タタラ技法
	S 必 陶芸Ⅱ－２ 食卓の風景/石膏型	S 必 陶芸Ⅳ－２ 空間の演出/タタラ技法
素材の可能性を探ることから表現の幅を広げる。		
独自の視点をもった発想力を養い、技法の特性を把握した表現力を身につける。		
発展的な技法による表現の可能性を探る。		
発想力・構想力・表現力を駆使した自己のイメージの作品可と表現の再確認をする。		

3 年次

土による表現の可能性を探る

4 年次

自身のイメージを表現につなげる

S 陶芸Ⅴ－5
選 釉薬研究

TX 陶芸演習Ⅲ－1
必 <第1課題> 空間を造形する(制作)

TX 陶芸演習Ⅲ－2
必 <第1課題> 不均衡の中のバランス(制作)

S 陶芸Ⅴ－1
必 発想の展開

S 陶芸Ⅴ－2
必 上絵の器

S 陶芸Ⅴ－4
選 技法研究/大物ロクロ

TX 陶芸演習Ⅳ
必 <第1課題> 自己表現の確立 / 制作構想
 <第2課題> 自己表現の確立/ポートフォリオの作成

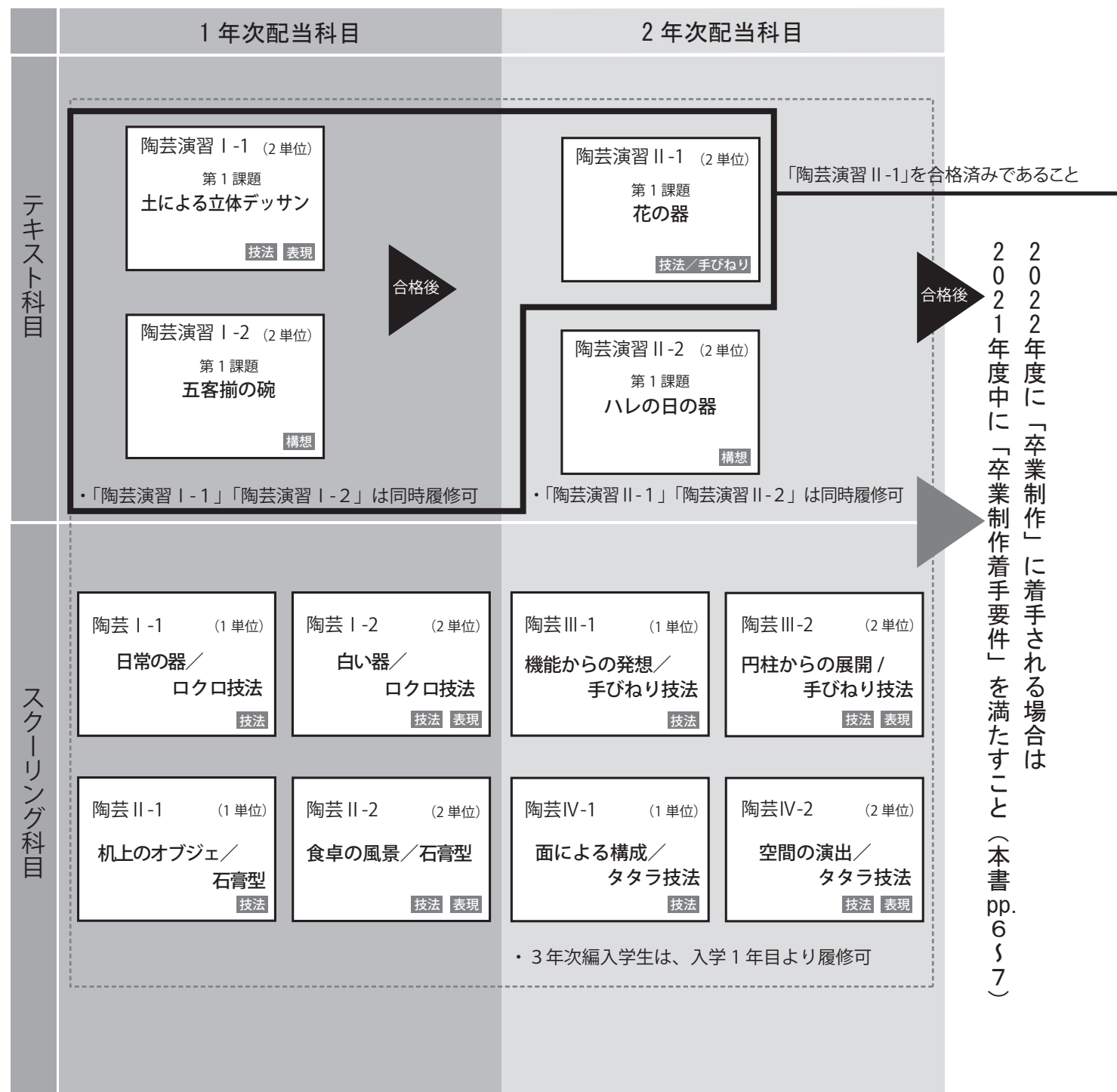
S 卒業制作

7. 履修条件図

コース専門演習テキスト科目、スクーリング科目について、配当年次および履修条件を記載しています。

履修条件の詳細は、それぞれの科目のページを確認してください。

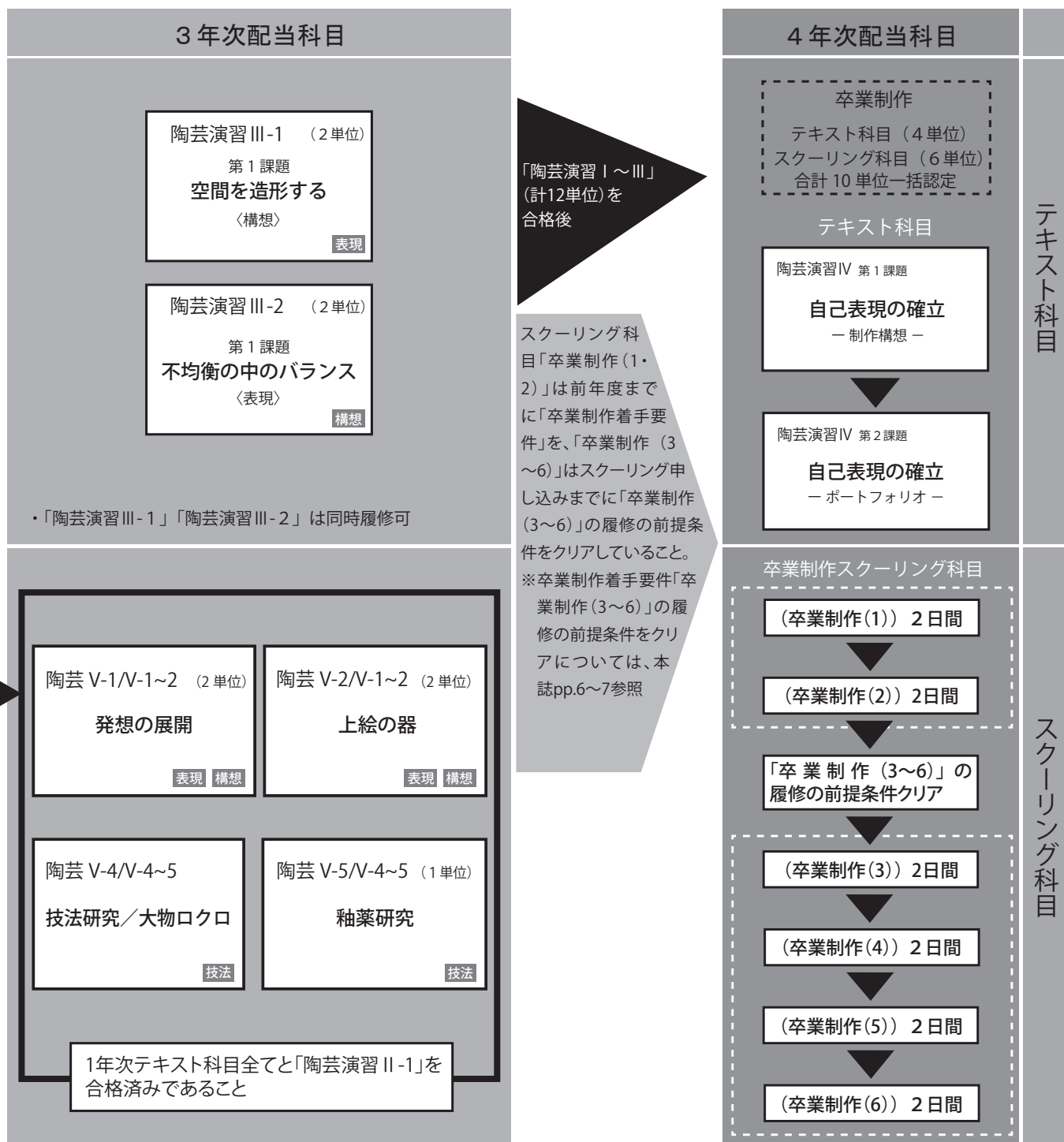
※2019年度以前に入学された方は学部共通専門教育科目の「造形基礎演習1・2」は卒業要件必修科目です。



技法・・・ロクロ挽き、型、手びねり、タタラなど作品を成形するために必要な技法を学ぶ。

表現・・・陶土、釉薬、焼成、加飾等の表現するための技法や知識を学ぶ。

構想・・・イメージやコンセプトを形にするための考え方を学ぶ。



※3 年次配当科目の必修単位については、本書 p.5 をご確認ください。

8. スクーリング日程・スクーリングコード一覧

2021年度に開講を予定しているスクーリングです。(日程が追加・変更になる場合があります。)
(各申込スケジュールは『学習ガイド2021』p.51をご確認ください。)

配当年次	科目名	スクーリングコード	授業内容	単位	会場	開 講 日 程	申込期 ※1
1年次	陶芸Ⅰ-1	6400101001	陶芸Ⅰ-1 (日常の器/ロクロ技法) K1	1	京都	7/10(土)～7/11(日)	夏期
		6400101002	陶芸Ⅰ-1 (日常の器/ロクロ技法) K2	1	京都	8/7(土)～8/8(日)	
	陶芸Ⅰ-2 ★	6400201001	陶芸Ⅰ-2 (白い器/ロクロ技法) K1	2	京都	10/9(土)～10/10(日)および 11/20(土)～11/21(日)	秋期
		6400201002	陶芸Ⅰ-2 (白い器/ロクロ技法) K2	2	京都	12/11(土)～12/12(日)および 2022/1/22(土)～1/23(日)	
	陶芸Ⅱ-1	6400301001	陶芸Ⅱ-1 (机上のオブジェ/石膏型) K	1	京都	6/19(土)～6/20(日)	春期
		6400301002	陶芸Ⅱ-1 (机上のオブジェ/石膏型) E	1	遠隔	6/26(土)～6/27(日)	
	陶芸Ⅱ-2 ★	6400401001	陶芸Ⅱ-2 (食卓の風景/石膏型) K1	2	京都	7/31(土)～8/1(日)および 9/25(土)～9/26(日)	夏期
		6400401002	陶芸Ⅱ-2 (食卓の風景/石膏型) K2	2	京都	8/21(土)～8/22(日)および 10/16(土)～10/17(日)	
2年次	陶芸Ⅲ-1	6400501001	陶芸Ⅲ-1 (機能からの発想 /手びねり技法) K1	1	京都	2022/1/8(土)～1/9(日)	冬期
		6400501002	陶芸Ⅲ-1 (機能からの発想 /手びねり技法) K2	1	京都	2022/2/19(土)～2/20(日)	
	陶芸Ⅲ-2 ★	6400601001	陶芸Ⅲ-2 (円柱からの展開 /手びねり技法) K1	2	京都	5/22(土)～5/23(日)および 7/3(土)～7/4(日)	春期
		6400601002	陶芸Ⅲ-2 (円柱からの展開 /手びねり技法) K2	2	京都	5/29(土)～5/30(日)および 7/17(土)～7/18(日)	
	陶芸Ⅳ-1	6400701001	陶芸Ⅳ-1 (面による構成 /タタラ技法) K1	1	京都	5/8(土)～5/9(日)	春期
		6400701002	陶芸Ⅳ-1 (面による構成 /タタラ技法) K2	1	京都	6/12(土)～6/13(日)	
	陶芸Ⅳ-2 ★	6400801001	陶芸Ⅳ-2 (空間の演出 /タタラ技法) K1	2	京都	10/2(土)～10/3(日)および 10/30(土)～10/31(日)	秋期
		6400801002	陶芸Ⅳ-2 (空間の演出 /タタラ技法) K2	2	京都	11/6(土)～11/7(日) および12/25(土)～12/26(日)	

配当 年次	科目名	スクーリング コード	授業内容	単位	会場	開 講 日 程	申込期 ※1
3年次	陶芸V-1 ★	6401801001	陶芸V-1/V-1～2 (発想の展開) K1	2	京都	4/17(土)～4/18(日)および 5/15(土)～5/16(日)	春期
		6401801002	陶芸V-1/V-1～2 (発想の展開) K2	2	京都	6/12(土)～6/13(日)および 7/10(土)～7/11(日)	
	陶芸V-2	6401901001	陶芸V-2/V-1～2 (上絵の器) K1	2	京都	5/22(土)～5/23(日)および 6/26(土)～6/27(日)	春期
		6401901002	陶芸V-2/V-1～2 (上絵の器) K2	2	京都	7/17(土)～7/18(日)および 8/21(土)～8/22(日)	夏期
	陶芸V-4	6402101001	陶芸V-4/V-4～5 (技法研究/大物ロクロ) K1	1	京都	10/2(土)～10/3(日)	秋期
		6402101002	陶芸V-4/V-4～5 (技法研究/大物ロクロ) K2	1	京都	10/30(土)～10/31(日)	
	陶芸V-5	6402201001	陶芸V-5/V-4～5 (釉薬研究) K1	1	京都	11/20(土)～11/21(日)	秋期
		6402201002	陶芸V-5/V-4～5 (釉薬研究) K2	1	京都	12/11(土)～12/12(日)	
4年次	卒業制作 (6単位 一括認定) ★	6409101001	卒業制作1 (プレゼンテーション)	1	京都	5/29(土)～5/30(日)	春期 ※2
		6409102001	卒業制作2 (制作)	1	京都	7/24(土)～7/25(日)	
		6409103001	卒業制作3 (制作)	1	京都	10/23(土)～10/24(日)	秋期 ※3
		6409104001	卒業制作4 (制作)	1	京都	11/13(土)～11/14(日)	
		6409105001	卒業制作5 (焼成)	1	京都	12/18(土)～12/19(日)	
		6409106001	卒業制作6 (合評)	1	京都	2022/1/22(土)～1/23(日)	

※1：春期（4,5,6月開講分）、夏期（7,8,9月開講分）、秋期（10,11,12月開講分）、冬期（1,2,3月開講分）

※2：「卒業制作1・2」は春期開講分の申込期間に2つまとめて申し込むこと。2021年度春期スクーリング先行申込開始は3/26（金）～3/30（火）ですが、airUマイページからの申込の場合は3/27（土）13：00～3/30（火）13：00となりますのでご注意ください。

※3：「卒業制作（3～6）」は秋期開講分の申込期間に4つまとめて申し込むこと。

★：『窯出し』を設定しております。詳細は該当科目のシラバスでご確認ください。

スクーリング日程表

各申込スケジュールは『学習ガイド2021』p.51をご確認ください

申込期	日 程	1年次配当		2年次配当	
		京都	遠隔	京都	遠隔授業なし
春期 (4・5・6月) 3/26～3/30 ※	4/17(土)～4/18(日)				
	5/8(土)～5/9(日)			陶芸Ⅳ－1 (面による構成/タタラ技法)K1	
	5/15(土)～5/16(日)				
	5/22(土)～5/23(日)			陶芸Ⅲ－2 (円柱からの展開/手びねり技法)K1前半	
	5/29(土)～5/30(日)			陶芸Ⅲ－2 (円柱からの展開/手びねり技法)K2前半	
	6/12(土)～6/13(日)			陶芸Ⅳ－1 (面による構成/タタラ技法)K2	
	6/19(土)～6/20(日)	陶芸Ⅱ－1 (机上のオブジェ/石膏型)K			
	6/26(土)～6/27(日)		陶芸Ⅱ－1 (机上のオブジェ/石膏型)E		
夏期 (7・8・9月) 5/17～5/25	7/3(土)～7/4(日)			陶芸Ⅲ－2 (円柱からの展開/手びねり技法)K1後半	
	7/10(土)～7/11(日)	陶芸Ⅰ－1 (日常の器/ロクロ技法)K1			
	7/17(土)～7/18(日)			陶芸Ⅲ－2 (円柱からの展開/手びねり技法)K2前半	
	7/24(土)～7/25(日)				
	7/31(土)～8/1(日)	陶芸Ⅱ－2 (食卓の風景/石膏型)K1前半			
	8/7(土)～8/8(日)	陶芸Ⅰ－1 (日常の器/ロクロ技法)K2			
	8/21(土)～8/22(日)	陶芸Ⅱ－2 (食卓の風景/石膏型)K2前半			
	8/28(土)～8/29(日)				
	9/25(土)～9/26(日)	陶芸Ⅱ－2 (食卓の風景/石膏型)K1後半			
秋期 (10・11・12月) 8/17～8/25	10/2(土)～10/3(日)			陶芸Ⅳ－2 (空間の演出/タタラ技法)K1前半	
	10/9(土)～10/10(日)	陶芸Ⅰ－2 (白い器/ロクロ技法)K1前半			
	10/16(土)～10/17(日)	陶芸Ⅱ－2 (食卓の風景/石膏型)K2後半			
	10/23(土)～10/24(日)				
	10/30(土)～10/31(日)			陶芸Ⅳ－2 (空間の演出/タタラ技法)K1後半	
	11/6(土)～11/7(日)			陶芸Ⅳ－2 (空間の演出/タタラ技法)K2前半	
	11/13(土)～11/14(日)				
	11/20(土)～11/21(日)	陶芸Ⅰ－2 (白い器/ロクロ技法)K1後半			
	12/11(土)～12/12(日)	陶芸Ⅰ－2 (白い器/ロクロ技法)K2前半			
	12/18(土)～12/19(日)				
	12/25(土)～12/26(日)			陶芸Ⅳ－2 (空間の演出/タタラ技法)K2後半	
冬期 (1・2・3月) 11/17～11/25	2022/1/8(土)～1/9(日)			陶芸Ⅲ－1 (機能からの発想/手びねり技法)K1	
	2022/1/15(土)～1/16(日)				
	2022/1/22(土)～1/23(日)	陶芸Ⅰ－2 (白い器/ロクロ技法)K2後半			
	2022/2/19(土)～2/20(日)			陶芸Ⅲ－1 (機能からの発想/手びねり技法)K2	

※第1回のWebでの申込開始は3/26(金)10:00～です。

3年次配当		卒業制作		日 程	申込期
京都	遠隔授業なし	京都	遠隔授業なし		
陶芸V-1/V-1~2 (発想の展開)K1前半				4/17(土)~4/18(日)	春期 (4・5・6月) 3/26~3/30
				5/8(土)~5/9(日)	
陶芸V-1/V-1~2 (発想の展開)K1後半				5/15(土)~5/16(日)	
陶芸V-2/V-1~2 (上絵の器)K1前半				5/22(土)~5/23(日)	
		卒業制作1 /プレゼンテーション		5/29(土)~5/30(日)	
陶芸V-1/V-1~2 (発想の展開)K2前半				6/12(土)~6/13(日)	
				6/19(土)~6/20(日)	
陶芸V-2/V-1~2 (上絵の器)K1後半				6/26(土)~6/27(日)	夏期 (7・8・9月) 5/17~5/25
				7/3(土)~7/4(日)	
陶芸V-1/V-1~2 (発想の展開)K2後半				7/10(土)~7/11(日)	
陶芸V-2/V-1~2 (上絵の器)K2前半				7/17(土)~7/18(日)	
		卒業制作2/制作		7/24(土)~7/25(日)	
				7/31(土)~8/1(日)	
				8/7(土)~8/8(日)	
陶芸V-2/V-1~2 (上絵の器)K2後半				8/21(土)~8/22(日)	
				8/28(土)~8/29(日)	秋期 (10・11・12月) 8/17~8/25
				9/25(土)~9/26(日)	
陶芸V-4/V-4~5 (技法研究/大物ロクロ)K1				10/2(土)~10/3(日)	
				10/9(土)~10/10(日)	
				10/16(土)~10/17(日)	
		卒業制作3/制作		10/23(土)~10/24(日)	
陶芸V-4/V-4~5 (技法研究/大物ロクロ)K2				10/30(土)~10/31(日)	
				11/6(土)~11/7(日)	
		卒業制作4/制作		11/13(土)~11/14(日)	
陶芸V-5/V-4~5 (釉薬研究)K1				11/20(土)~11/21(日)	
陶芸V-5/V-4~5 (釉薬研究)K2				12/11(土)~12/12(日)	冬期 (1・2・3月) 11/17~11/25
		卒業制作5/焼成		12/18(土)~12/19(日)	
				12/25(土)~12/26(日)	
				2022/1/8(土)~1/9(日)	
				2022/1/15(土)~1/16(日)	
		卒業制作6/合評		2022/1/22(土)~1/23(日)	11/17~11/25
				2022/2/19(土)~2/20(日)	

9. 履修モデル

1年次入学生年間学習モデル

下記表は、1年次入学生（卒業要件124単位以上）が4年間で卒業すると仮定した場合の年間学習モデルです。
全体として、卒業制作に集中できるように高年次になるに従い修得単位数を少なくするようお勧めします。
履修計画を立てる際は、卒業要件と各科目の開講状況・履修条件等をご確認ください。卒業要件については『学習ガイド2021』を、
各科目の開講状況・履修条件等についてはシラバスの各科目のページを確認してください。

1年目																	
科目群・ 区分	科目名	単位 数	履修 形態 (注1)	必修 選択 (注2) 2020年度 以降入学	必修 選択 (注2) 2019年度 以前入学	春期			夏期			秋期			冬期		
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合教育科目	ことばと表現	1	TR						レポート		試験						
	論述基礎	2	TR												レポート		試験
	外国語1	2	TR												レポート		試験
	色彩と形	2	TR												レポート		試験
	民俗学への階段	1	S						2日間								
	入門デッサン1	1	S					2日間									
	自然学への階段	1	S								2日間						
	学芸基礎講義1	1	GS												GS		
	学芸基礎講義2	1	GS				GS										
専門教育科目	学部共通専門教育科目	美術史（日本）1	2	TR								レポート		試験			
		美術史（日本）2	2	TR								レポート		試験			
		立体造形演習1	2	TW						第1課題							
		造形基礎演習1	2	TW		●									第1課題		
		造形基礎演習2	2	TW		●						第1課題					
		著作権を学ぶ	1	S			2日間										
		学芸専門演習1	1	GS							GS						
		芸術史講義（近現代）1	2	WS								動画視聴	レポート	講評視聴			
	演習科目 コース専門	陶芸演習Ⅰ-1	2	TX	●	●		第1課題									
		陶芸演習Ⅰ-2	2	TX	●	●			第1課題								
		演習S科目 コース専門	陶芸Ⅰ-1	1	S	●	●		2日間								
			陶芸Ⅰ-2	2	S	●	●							2日間（前半）	2日間（後半）		
			陶芸Ⅱ-1	1	S	●	●		2日間								
			陶芸Ⅱ-2	2	S	●	●				2日間（前半）		2日間（後半）				
1年目の修得単位数・内訳		36															

2年目																		
科目群・ 区分	科目名	単位 数	履修 形態 (注1)	必修 選択 (注2) 2020年度 以降入学	必修 選択 (注2) 2019年度 以前入学	春期			夏期			秋期			冬期			
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合教育科目	文化研究1	2	TR												レポート		試験	
	京都を学ぶ	2	TR									レポート		試験				
	音楽	2	TR						レポート		試験							
	日本史	2	TR			レポート		試験										
	身体	2	TR			レポート		試験										
	入門デッサン3	1	S									2日間						
	社会学への階段	1	S													2日間		
	学芸基礎演習1	1	GS								GS							
	学芸基礎演習2	1	GS									GS						
専門教育科目	学部共通 専門教育科目	立体造形演習2	2	TW						第1課題								
		芸術史講義（日本）1	2	WS			動画視聴	レポート	講評視聴									
		芸術史講義（アジア）1	2	WS			動画視聴	レポート	講評視聴									
		芸術史講義（ヨーロッパ）1	2	WS								動画視聴	レポート	講評視聴				
		芸術史講義（近現代）2	2	WS											動画視聴	レポート	講評視聴	
	コース専門 演習S科目	陶芸演習Ⅱ-1	2	TX	●	●					第1課題							
		陶芸演習Ⅱ-2	2	TX	●	●							第1課題					
		陶芸Ⅲ-1	1	S	●	●										2日間		
		陶芸Ⅲ-2	2	S	●	●		2日間（前半）		2日間（後半）								
		陶芸Ⅳ-1	1	S	●	●			2日間									
		陶芸Ⅳ-2	2	S	●	●								2日間（前半）	2日間（後半）			
2年目の修得単位数・内訳		34																

3年目																		
科目群・区分		科目名	単位数	履修形態 (注1)	必修 選択 (注2) 2020年度 以降入学	必修 選択 (注2) 2019年度 以前入学	春期			夏期			秋期			冬期		
							4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合教育科目		文化研究2	2	TR						レポート		試験						
		日本文化論	2	TR			レポート		試験									
		入門デッサン5	1	S						2日間								
		哲学への階段	1	S								2日間						
		天文学・地文学・人文学への階段	1	S											2日間			
		考古学への階段	1	S				2日間										
専門教育科目	学部共通専門教育科目	美術史（アジア）1	2	TR								レポート		試験				
		美術史（アジア）2	2	TR											レポート		試験	
		工芸1	2	TR					レポート		試験							
		色彩表現基礎	2	TW								第1課題						
		形態表現基礎	2	TW											第1課題			
		芸術史講義（日本）2	2	WS					動画視聴	レポート	講評視聴							
		芸術史講義（日本）3	2	WS											動画視聴	レポート	講評視聴	
		コース専門演習T科目																
	コース専門演習S科目	陶芸演習Ⅲ-1	2	TX	●	●	第1課題											
		陶芸演習Ⅲ-2	2	TX	●	●							第1課題					
		陶芸V-1	2	S	●	●	2日間(前半)	2日間(後半)										
		陶芸V-2	2	S	●	●				2日間(前半)	2日間(後半)							
		陶芸V-4	1	S	●	●							2日間					
		陶芸V-5	1	S	●	●									2日間			
3年目の修得単位数・内訳		32	※翌年度、卒業制作に着手するためには、着手要件を満たす必要があります。															

4年目																			
科目群・区分		科目名	単位数	履修形態 (注1)	必修選択 (注2) 2020年度 以降入学	必修選択 (注2) 2019年度 以前入学	春期			夏期			秋期			冬期			
							4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合教育 科目		中国文化論	2	TR			レポート		試験								卒業制作着手者は冬期に卒業関連科目以外の履修ができません。		
		東北を学ぶ	2	TR								レポート		試験					
		伝統芸術基礎(煎茶)	1	S					2日間										
		映画研究への階段	1	S								2日間							
専門教育科目	学部共通専門 教育科目	美術史(近現代)1	2	TR			レポート		試験										
		美術史(近現代)2	2	TR						レポート		試験							
		芸術史講義(日本)4	2	WS						動画視聴	レポート	講評視聴							
	コース専門 演習科目	陶芸演習Ⅳ	4	TX	●	●		第1課題								第2課題			
		卒業制作	6	S	●	●			2日間(卒制1)		2日間(卒制2)			2日間(卒制3)	2日間(卒制4)	2日間(卒制5)		2日間(卒制6)	
4年目の修得単位数・内訳			22																

4年間の合計	124 単位 (うち S57 単位)	総合教育科目 : 40単位 学部共通専門教育科目 : 44単位 コース専門演習T科目 : 16単位 コース専門演習S科目 : 24単位														

注1：履修形態については本書p.4の「3. 学習を進めるにあたって」をご参照ください。

注2：●＝必修科目<必ず単位を修得することが求められる科目>

空白＝選択科目<修得するかしないかを含め自由に選択できる科目。ただし卒業要件で定められた修得すべき単位数を最低限選択する事が必要。（例えば学部共通専門教育科目から12単位以上を修得すること等）>

注3：卒業制作に着手している学生は卒業関連科目以外を冬期（1月～3月）に履修することはできません。必ず秋期までに受講し合格してください。

TR科目については、第1課題合格後に単位修得試験を受験できます。そのため、12月の単位修得試験を受けるためには、第1課題を10月度に提出し合格する必要があります。

3年次編入学生（卒業要件62単位以上・専門52単位以上）年間学習モデル

下記表は、3年次編入学生（卒業要件62単位以上・専門52単位以上）が2年間で卒業すると仮定した場合の年間学習モデルです。
全体として、卒業制作に集中できるよう高年次になるに従い修得単位数を少なくするようお勧めします。
履修計画を立てる際は、卒業要件と各科目の開講状況・履修条件等をご確認ください。卒業要件についてはお手元の「入学許可証・卒業要件通知」を、各科目の開講状況・履修条件等についてはシラバスの各科目のページを確認してください。

1年目																		
科目群・ 区分	科目名	単 位 数	履 修 形 態 (注1)	必修 選択 (注2) 2020年度 以降入学	必修 選択 (注2) 2019年度 以前入学	春期			夏期			秋期			冬期			
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合教育科目	ことばと表現	1	TR			レポート		試験										
	論述基礎	2	TR												レポート		試験	
	外国語1	2	TR									レポート		試験				
	入門デッサン1	1	S			2日間												
	伝統芸術基礎（伝統芸能）	1	S												2日間			
	自然学への階段	1	S									2日間						
学部共通専門教育科目	美術史（ヨーロッパ）1	2	TR						レポート		試験							
	美術史（ヨーロッパ）2	2	TR												レポート		試験	
	工芸1	2	TR									レポート		試験				
	造形基礎演習1	2	TW		●							第1課題						
	造形基礎演習2	2	TW		●										第1課題			
専門教育科目	演習T科目	陶芸演習Ⅰ-1	2	TX	●	●		第1課題										
		陶芸演習Ⅰ-2	2	TX	●	●			第1課題									
		陶芸演習Ⅱ-1	2	TX	●	●				第1課題								
		陶芸演習Ⅱ-2	2	TX	●	●						第1課題						
	演習S科目	陶芸Ⅰ-1	1	S	●	●			2日間									
		陶芸Ⅰ-2	2	S	●	●									2日間(前半)	2日間(後半)		
		陶芸Ⅱ-1	1	S	●	●			2日間									
		陶芸Ⅱ-2	2	S	●	●					2日間(前半)		2日間(後半)					
		陶芸Ⅲ-1	1	S	●	●										2日間		
		陶芸Ⅲ-2	2	S	●	●			2日間(前半)		2日間(後半)							
		陶芸Ⅳ-1	1	S	●	●				2日間								
		陶芸Ⅳ-2	2	S	●	●									2日間(前半)	2日間(後半)		
1年目の修得単位数・内訳		38	※翌年度、卒業制作に着手するためには、着手要件を満たす必要があります															

2年目																	
科目群・ 区分	科目名	単 位 数	履 修 形 態 (注1)	必修 選択 (注2)	必修 選択 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				2020年度 以降入学	2019年度 以前入学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門教育科目	学部 共通 専門 教育 科目	美術史（アジア）1	2	TR						レポート		試験				卒業制作着手者は 冬期に卒業関連科 目以外の履修がで きません。	
		美術史（アジア）2	2	TR			レポート			試験							
		立体造形演習1	2	TW			第1課題										
		立体造形演習2	2	TW							第1課題						
	コース専門 演習T科目	陶芸演習Ⅲ-1	2	TX	●	●	第1課題										
		陶芸演習Ⅲ-2	2	TX	●	●		第1課題	第2課題								
		陶芸演習Ⅳ	4	TX	●	●		第1課題						第2課題			
		コース専門 演習S科目	陶芸Ⅴ-1	2	S	●	●	2日間（前半）	2日間（後半）								
	陶芸Ⅴ-2		2	S	●	●				2日間（前半）	2日間（後半）						
	陶芸Ⅴ-4		1	S	●	●						2日間					
	陶芸Ⅴ-5		1	S	●	●								2日間			
		卒業制作	6	S	●	●		2日間（卒制1）		2日間（卒制2）			2日間（卒制3）	2日間（卒制4）	2日間（卒制5）	2日間（卒制6）	
2年目の修得単位数・内訳		28															

2年間の合計	66 単位	総合教育科目：8単位		コース専門演習T科目：16単位	
		学部共通専門教育科目：18単位		コース専門演習S科目：24単位	

注1：履修形態については本書p4の「3. 学習を進めるにあたって」をご参照ください。
注2：●＝必修科目＜必ず単位を修得することが求められる科目＞
空白＝選択科目＜修得するかしないかを含め自由に選択できる科目。ただし卒業要件で定められた修得すべき単位数を最低限選択する事が必要。（例えば学部共通専門教育科目から12単位以上を修得すること等）＞
注3：卒業制作に着手している学生は卒業関連科目以外を冬期（1月～3月）に履修することはできません。
必ず秋期までに受講し合格してください。
TR科目については、第1課題合格後に単位修得試験を受験できます。
そのため、12月の単位修得試験を受けるためには、第1課題を10月度に提出し合格する必要があります。

10. 専門演習テキスト科目 (TW・TX)

テキスト科目(TX科目)

テキストや参考文献などの教材をもとに、自宅で学習を進める科目のことをいいます。自宅で課題に取り組み、提出して教員の評価・講評を受けます。テキスト科目の課題に着手する際、シラバス各科目ページの「履修の前提条件」「課題提出順序」「提出期間」などを確認した上で取り組んでください。万一、間違って提出された場合は「不備返却」となり、再度提出していただくことになりますのでご注意ください。

テキスト科目の提出方法など、取り組み方については本誌pp.21～24の「12.課題作品の制作について」の項目を確認してください。

●履修について

陶芸コースのテキスト科目は、科目の配当年次の順に従って学習を進めるステップアップ形式となっています。1年次配当科目（合格後）→2年次配当科目（合格後）→3年次配当科目（合格後）→4年次配当科目の順番に履修してください。制作された作品を素焼、または生の状態で提出された場合、合格した作品を本学（通信陶芸添削室）で焼成して返却します。ご自身で焼成できる方は、事前に焼成して提出してください。また、作品焼成の都合上、科目ごとにコース独自の提出期間を設けています。提出期間につきましてはシラバスに記載されている、各科目の課題提出期間をご確認ください。

●履修の前提条件

各科目の履修の前提条件を確認しましょう。「陶芸演習Ⅰ-1」第1課題、および「陶芸演習Ⅰ-2」第1課題は履修の前提条件がありませんので、まずはこの課題から取り掛かりましょう。課題は提出期間を設けていますので、計画的に進めてください。

※複数の課題を同時に履修し提出する場合、同梱して提出することはできません。同時に提出する場合は、指定のダンボール「陶芸作品送付用ダンボール」に課題ごとに入れて提出してください。

●単年度履修

全てのテキスト科目は単年度（1年間）で単位が認定されます。課題が2つある「陶芸演習Ⅳ」は、第1課題と第2課題を同じ年度内に提出し、2課題とも合格しなければ単位が認定されません。合格しなかった場合、次年度にあらためて2課題とも取り組むことになります。

●配当年次

1年次配当科目

1年次入学生、3年次編入学生は入学初年度から履修することができます。「陶芸演習Ⅰ-1」および「陶芸演習Ⅰ-2」第1課題から始め、履修の前提条件に従って進めてください。

2年次配当科目

1年次入学生は2年目に、3年次編入学生は入学初年度に「陶芸演習Ⅰ-1」「陶芸演習Ⅰ-2」を合格すれば履修することができます。

3年次配当スクーリング科目「陶芸Ⅴ-1」～「陶芸Ⅴ-5」を履修するには、テキスト科目「陶芸演習Ⅰ-1」「陶芸演習Ⅰ-2」「陶芸演習Ⅱ-1」を合格していることが前提条件となりますので、早めに取り組んでください。

3年次配当科目

1年次入学生は3年目に、3年次編入学生は入学初年度に「陶芸演習Ⅱ-1」「陶芸演習Ⅱ-2」を合格すれば履修することができます。

4年次配当科目

前年度までに「卒業制作着手要件」を満たした場合、履修が可能です。「卒業制作」（スクーリング科目/6単位）、「陶芸演習Ⅳ」（テキスト科目/4単位）を並行して履修を進めます。単位は10単位一括認定です。

11. 専門演習スクーリング科目 (S)

スクーリング科目(S科目)

大学キャンパスでの対面やオンラインでの遠隔で授業を受ける科目のことをスクーリング科目といいます。陶芸コースでは、成形、乾燥、素焼、施釉、焼成という陶芸の基本的な過程を学ぶために2日間（1単位）と4日間（2単位）の授業日程で構成し、各年次12日間（合計6単位）が開講されています。受講の前に自宅で行う事前課題があります。それらを含めて単位が認定されます。シラバスの各科目に記載された内容とスクーリング中の指示に従って取り組んでください。

● 履修方法

Webから申し込む方法と郵送で申し込む方法とがあります。申込期間中に郵送、または窓口で提出してください。受講許可・不許可の連絡はWeb申し込みの方はairU、郵送申し込みは「スクーリング受講申込結果通知及び受講票」を送付しますので、お手元に届きましたら必ずご確認ください。詳細は『学習ガイド2021』pp.52～54を確認してください。

※月をまたいで開講するスクーリングは、授業初日の月を開講月とします。

● 履修の前提条件

科目によって履修の前提条件が異なります。条件を満たしていない場合は受講ができませんので申し込みをされても不許可になります。申し込み前に必ず各科目の履修の前提条件を確認し、条件を満たしてから申し込みをしてください。

● スクーリング科目の事前課題

スクーリング科目には事前課題が設定されています。事前課題はシラバスの「課題」の欄に記載されますので、必ず確認しスクーリング初日までに準備を進めてください。事前課題はスクーリング授業と一体として構成されていますので、2日間という集中した授業で学習効果をあげるためにも事前課題の内容は受講の1ヶ月前には確認してください。

2日間のスクーリング授業は、事前課題が完了していることを前提として進めていきます。課題は科目ごとに設定されていますので、指定のあるものは授業当日に持参してください。

取り組んでいない場合や指定の持参物が準備できていない場合は原則として単位認定外となります。

● 単位認定

授業は全講時出席が原則です。欠席・遅刻・早退が発生した場合は、単位認定の対象になりません。また、同一科目内での日程変更はできません（例：前半2日間k日程受講後、都合によりキャンセルし後半2日間のみk2日程を受講することはできません）。別日程または次年度以降に改めて初日から受講してください。申込取消・欠席の手続きについては、『学習ガイド2021』pp.55～56を参照してください。

● 配当年次

1年次配当科目

「陶芸Ⅰ-1」「陶芸Ⅰ-2」「陶芸Ⅱ-1」「陶芸Ⅱ-2」のいずれの科目からも履修できます（ただし、「陶芸Ⅰ-1」「陶芸Ⅱ-1」は基礎の内容になっていますので、先に履修することをお勧めします）。

2年次配当科目

「陶芸Ⅲ-1」「陶芸Ⅲ-2」「陶芸Ⅳ-1」「陶芸Ⅳ-2」のいずれの科目からも履修できます（ただし、「陶芸Ⅲ-2」「陶芸Ⅳ-2」は基礎の内容になっていますので、先に履修することをお勧めします）。

※1年次入学生は2年目に、2年次編入学生、3年次編入学生は入学初年度から履修することができます。

3年次配当科目

「陶芸Ⅴ-1」「陶芸Ⅴ-2」「陶芸Ⅴ-4」「陶芸Ⅴ-5」のいずれの科目からも履修できます。

※1年次入学生は3年目に、2年次編入学生は2年目に、3年次編入学生は初年度に1、2年次配当科目のうち1年次テキスト科目全てと「陶芸演習Ⅱ-1」を合格済みであれば履修することができます。

ただし、2014年度以降の入学生と2013年度以前の入学生でそれぞれ成績認定の際の科目名が異なります。

〈2014年度以降の入学生〉

「陶芸Ⅴ-1」（発想の展開）および「陶芸Ⅴ-2」（上絵の器）の2科目（各2単位）を必修とします。

「陶芸Ⅴ-4」～「陶芸Ⅴ-9」のなかからいずれか2科目（各1単位）を選択必修とします。

〈2013年度以前の入学生〉

「陶芸Ⅴ-1」「陶芸Ⅴ-2」「陶芸Ⅴ-4」「陶芸Ⅴ-5」を必修とします。「陶芸Ⅴ-1～2」（発想の展開）および（上絵の器）の2科目を必修とし、「陶芸Ⅴ-1」「陶芸Ⅴ-2」の順で単位認定します。

また、「陶芸Ⅴ-4」～「陶芸Ⅴ-9」のなかからいずれか2科目を選択必修とし、「陶芸Ⅴ-4」「陶芸Ⅴ-5」の順で単位認定します。

4年次配当科目

「卒業制作1・2」の履修をする為には前年度までに【卒業制作着手要件】を満たす必要があり、「卒業制作（3～6）」の履修をする為には「卒業制作（3～6）」の【履修の前提条件】を満たす必要があります。詳しくは本書pp.6～7をご確認ください。

「卒業制作」（スクーリング科目/6単位）、「陶芸演習Ⅳ」（テキスト科目/4単位）を並行して履修を進めます。単位は10単位一括認定です。

※卒業制作スクーリングは、春期・秋期の計2回スクーリング申込が必要です。

12. 課題作品の制作について

1. 教材の入手方法

陶土・釉原料などを購入できる材料店を掲載しています。airUマイページ>教材BOXまたはシラバス巻末の【資料編・教材申込書】をご参照ください。

【申込時の注意事項】

- ・材料店より直接自宅へ発送されます。
- ・各店の申し込み、支払方法をよく確認の上、注文してください。

①陶土の購入

制作に必要な陶土は、最寄の材料店で各自購入してください。最寄に材料店がなく陶土の入手が困難な方は、通信販売で購入できます。airUマイページ>教材BOXの各申込書に必要事項を記入の上、下記の申込先へ直接注文してください。

陶土購入申込先

■泉陶料

〒607-8322 京都市山科区川田清水焼団地2-2 TEL: 075-581-8833/FAX: 075-593-4127

■下鴨陶芸

〒606-0863 京都市左京区下鴨東本町15 TEL: 075-781-5514/FAX: 075-781-5514

②釉薬の購入

課題作品を自宅で焼成して提出する場合、必要な釉薬は各自で用意してください。入手が困難な方は、通信販売で購入できます。airUマイページ>教材BOXの申込書に必要事項を記入の上、下記の申込先へ直接注文してください。なお、釉薬の量は、1課題につき3kg程度を目安に購入してください。

釉薬購入申込先

■イワサキ

〒605-0862 京都市東山区清水町4丁目171 TEL: 075-561-3110/FAX: 075-531-5316

2. 陶土の保存方法について

乾かないようにビニールを2重にして密封し、日の当たらない場所に保管してください。長期間使わない場合は、それをプラスチックケース（コンテナ）、またはダンボール箱などに入れておくと約半年は大丈夫です。たまに様子を見て霧吹きで水をかけ、湿らせてください。

3. 名前の記入方法について

必ず作品の裏に学籍番号と氏名をわかりやすく、はっきりと刻んでください。本焼焼成済みの作品に限り、シールなどでもかまいません。はがれないようにしっかり貼りつけてください。添削指導評価書用に作品の撮影をしますので、見えないところに貼付してください。

【注意事項】

- ・イニシャルやニックネームなどでは判別できません。必ず氏名を記入してください。
- ・生や素焼の作品に鉛筆やマジックで記入した場合、焼成時に消えます。必ず刻んでください。
- ・作品の大きさによって刻みにくい場合は、下記のように学籍番号のみ一部省略しても構いません。

（例）学籍番号32064×××の場合

320^① 64^② ×××^③ → 「20-×××」と省略する。

①入学年度（上記は2020年度入学）

②コース番号（64は陶芸コース）

③個人番号（3ケタ）

●課題提出について

提出方法

送付、窓口（陶芸添削室）のいずれかの方法で提出してください。

- ・送付提出…「陶芸作品送付用ダンボール」（『学習ガイド2021』pp.75～76）に入れて、提出期間内に届くよう運送会社の日時指定サービスなどを利用してください。また、地域によっては発送翌日に到着しない場合もありますので、余裕を持って発送してください。
- ・窓口提出…課題提出期間内に指定の提出先に、必ず学生本人が提出してください。日曜日、または通信教育課程事務局窓口では受け付けできません。

提出先

送付先：〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都芸術大学通信教育課程 通信陶芸添削室宛

窓口提出：人間館地下2階 通信陶芸添削室 ※通信教育課程事務局窓口では提出できません

- ・窓口提出は必ず通信陶芸添削室での授受となります。課題提出期間と時間を確認の上、お越してください。
- ・作品提出時には、大学からの返却に必要なもの（陶芸作品送付用ダンボール、返却用佐川急便着払い伝票（返送先明記））を持参してください。
- ・車での来学は禁止です。

提出期間および提出締切日、返却日

各課題に定められた提出期間内【必着】

- ・窓口（通信陶芸添削室）は当日窓口受付時間まで
受付時間：課題提出期間の土曜日10：00～15：00、月曜日10：00～16：00（月曜日が祝日の場合、翌火曜日10：00～16：00）
- ・返却は各課題の提出期間後、1ヶ月をめぐりに行います。窓口での作品返却はできません。

●課題作品の評価について

S～Dの5段階で課題を評価します。S～Cは合格、Dは不合格（＝再提出）です。

[S：100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：59点以下]

「airUマイページ」課題の提出状況や評価（S～D）を確認することができますので、利用してください。

1. 課題の再提出について

課題の評価がD評価であった場合、再提出となります。

・作品の返却について

D評価の場合は提出期間の最終日から10日以内をめぐりに返却しますので、再制作し次の提出期間に提出してください。提出作品数が2点以上ある課題において一部の作品のみがD評価（＝再提出）となった場合は、D評価となった作品のみを返却し、それ以外の作品は次回の提出期間まで通信陶芸添削室で保管します。年度最終提出期間までに再提出がなかった場合、保管していた作品はすべて返却します。

・再提出期間

次回の提出期間に提出してください。

各科目で設定している年度最終提出期間に受付・添削された課題の評価が不合格（D評価）となった場合は、年度内に再提出できる機会がありません。

2. 課題作品の不備について

課題提出においてシラバスの指示内容が守られていない場合や、提出形態に不備がある場合は受け付けができません。その場合、不備内容をお知らせする書類を同梱し返却します。

不備返却の対象となる主な理由は、以下の通りです。

- ・複数の課題を1つのダンボール箱に同梱している。

- ・規定外のダンボール箱を使用している。
- ・提出期間が間違っている。
- ・履修の前提条件を満たしていない。
- ・添削指導評価書が同梱されていない。
- ・作品に学籍番号、氏名の記入がない。
- ・前回D評価となった際の添削指導評価書が同梱されていない。

●焼成費について

自宅の窯などご自身で焼成できる方（自宅焼成）は、課題毎に指定されている釉薬、焼成方法で事前に焼成し提出してください。焼成済みの作品を提出できない場合は大学で焼成（学内焼成）を行いますので、「学内焼成費」が必要です。金額は、課題の焼成欄に記載しています。焼成費は各自指定口座より引き落としを行います。

●課題作品の梱包について

課題作品は、必ず大学指定の「陶芸作品送付用ダンボール」（縦41cm×横41cm×高さ33.5cm）に入れて提出してください。入学年度のみ、教材として大学から送付します。ダンボール箱のサイズや厚さは、作品の破損をできるだけ防げるように考えたものです。また、1つのダンボール箱に複数の科目の課題を入れて提出することはできません。複数の課題を同時に提出する場合は、課題ごとにダンボール箱を用意して、1課題につき1つのダンボール箱に入れて提出してください。追加で購入される場合は、『学習ガイド2021』pp.75～76の教材申し込み方法を確認のうえ、通信教育課程事務局までお申し込みください。

1.クッション材の準備

大学よりダンボール箱を送付する際に、クッション材が含まれています。バラバラにならないように、ビニール袋などに小分けにして使用してください。（図1）

その他の梱包材として、新聞紙やエアークャップ（プチプチ）などが利用できます。

2.ダンボールの準備

ダンボール箱は、提出と返却を繰り返すため、使用前に布テープで補強しておきます。クラフトテープは2重に貼ることができませんので（フタの部分は最後に閉じる時に2重になります）、布テープを使用してください。（図2）補強が完了したら、ダンボール箱に印刷されている枠内に8桁の学籍番号・氏名・課題名を明記してください。

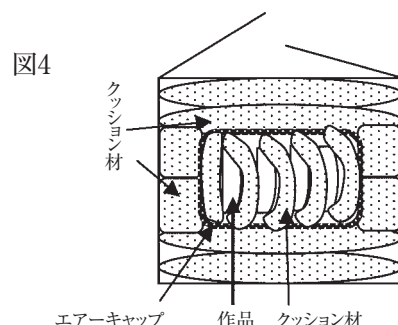
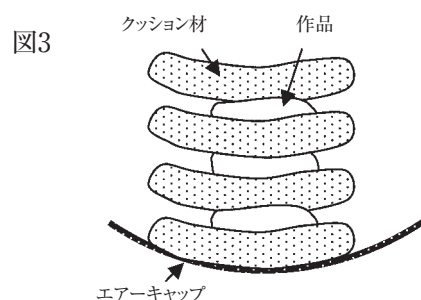
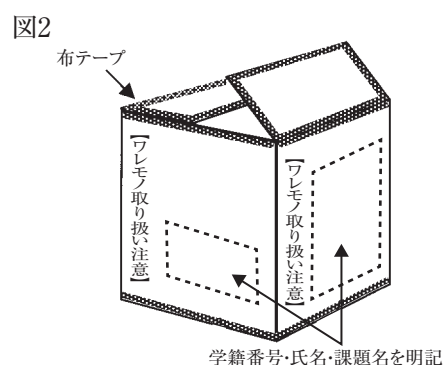
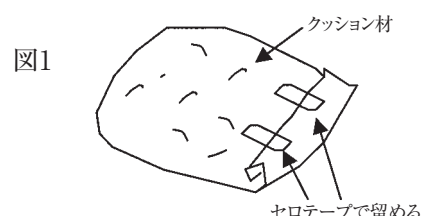
3.作品の梱包

①作品は、よく揉んで柔らかくした新聞紙で1つずつ包み、小分けにしたクッション材を作品と作品が直接触れないように間に挟みます。それらの作品とクッション材を大きく広げた新聞紙やエアークャップで包みあげます。（図3）

②ダンボール箱の中（底）にしっかりとクッション材を敷きます。次に、ダンボール箱の中央に①で包んだものを入れ、上下左右の隙間に残ったクッション材や新聞紙などを作品が動かない程度に詰めます。中央の作品が、ダンボール箱の宙に浮かんだ状態がベストです。（図4）

③ダンボール箱を揺すってみて動かなければ、最後にクッション材を被せてフタを閉じます。

※閉じる時に上から押さえると、中の作品が割れることがあります。フタが盛り上がる時は、クッション材を加減してください。



4. 添削指導評価書・2021年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース）の準備

『学習ガイド2021』p.205の書式またはairU学習ガイドに掲載の添削指導評価書を使用してください。提出する課題名が記載された添削指導評価書に、学籍番号、氏名、科目名、科目コードなど必要事項を記入してください。指示されている箇所以外は白紙で提出してください。

テキスト作品課題提出用紙は本誌巻末に集録またはairUマイページ>教材BOXに掲載されていますので、コピーまたはダウンロードした書式を印刷して使用ください。

※テキスト作品課題提出用紙は、ご記入後切り取らず、A4サイズのまま提出してください。

5. 送り状伝票の準備

- ・送付用の送り状伝票

送り状（記事欄・品名）に「テキスト科目名」「作品状態（生、素焼または本焼）」「陶器ワレモノ」を記入してダンボール箱に貼付してください。

- ・返却用の送り状伝票

返送先の住所・氏名を記入し、必ず課題提出時に同梱してください。

返却用の送り状伝票は入学初年度に配布するダンボール箱に同梱します。以降は年度初めの一斉送付教材でお送りしますが、追加が必要な場合は、課題提出時にメモなどで連絡してください。課題返却時に3枚同梱します。

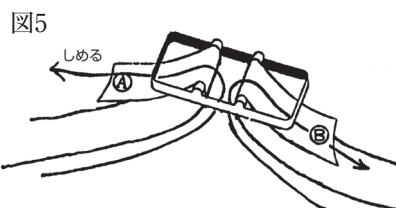
6. 梱包ベルトの締め方

ダンボール箱と同時に配布している黄色の梱包ベルトを2本使用してください。ベルトは繰り返し使用しますので、切らないでください（梱包ベルトを使用しない送付も可とします。ただしダンボール箱の底が抜けそうな荷物は必ず梱包ベルトを使用してください）。

①ストッパーのつめを曲げて、片方のベルトを下から外側へ矢印の方向に通します。

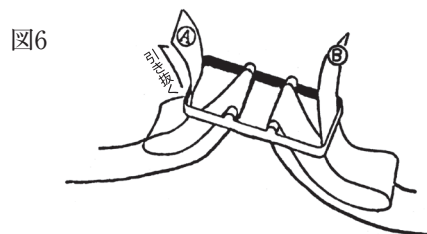
②もう1方をダンボール箱に1周させて、同様に下から外側へ矢印の方向に通します。

③片方のベルト④を押さえながら⑤を引っ張ると、しっかり締まります。（図5）



7. 梱包ベルトのほどき方

ベルトの④か⑤を、もう1度ストッパーの中に差し込み、引き抜きます。（図6）



8. 梱包が完了した状態

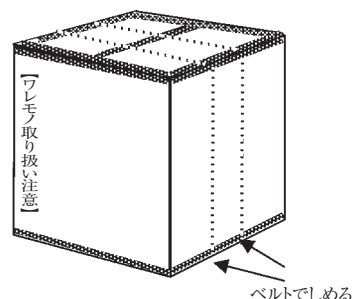
図7のようになります。

【注意事項】

・ 運送中に作品が破損した場合、大学側では一切責任を負えませんのでご了承ください。

・ 送付での作品提出は、元払いで提出してください。着払いで届いた場合は受け取れません（返却は着払いとなります）。

図7



13. 2021年度 テキスト作品課題提出用紙(陶芸コース)

陶芸コースではコース専門演習テキスト科目の作品課題を提出する際、本用紙と『学習ガイド2021』に収録されている「添削指導評価書」に必要事項を記入し、提出物に同封のうえ送付してください。

※この書式をコピーするか、airUマイページ＞教材BOXからダウンロードした書式を印刷してご使用ください。

陶芸演習Ⅰ-1 第1課題（初回提出・再提出）	
学籍番号	
氏名	
提出時の作品状態を○で囲む	生・素焼・本焼
作品モチーフ名	

陶芸演習Ⅲ-1 第1課題（初回提出・再提出）	
学籍番号	
氏名	
提出時の作品状態を○で囲む	生・素焼・本焼

陶芸演習Ⅰ-2 第1課題（初回提出・再提出）	
学籍番号	
氏名	
提出時の作品状態を○で囲む	生・素焼・本焼

陶芸演習Ⅲ-2 第1課題（初回提出・再提出）	
学籍番号	
氏名	
提出時の作品状態を○で囲む	生・素焼・本焼

陶芸演習Ⅱ-1 第1課題（初回提出・再提出）	
学籍番号	
氏名	
提出時の作品状態を○で囲む	生・素焼・本焼

※提出の際は切り取らず、A4サイズのままご提出してください。

陶芸演習Ⅱ-2 第1課題（初回提出・再提出）	
学籍番号	
氏名	
提出時の作品状態を○で囲む	生・素焼・本焼

